

秀吉公聚樂におはしましければ彌洛中洛外にさはひ侍るやうにあらまほしくおぼしたまふて東山に大佛殿を建立し給ふべき旨、五人の奉行共に被仰付にけり。

〔雍州府志建置沿革〕豐臣秀吉公一統日、京城四方築封境種修竹、是號四方土手、倭俗堤防曰土手、如今太平日久、諸民富庶、故洛中人家日盛、月增、如今從公課之戶四萬七千軒、口男女五十萬七千五百四十八人餘也、是延寶九年九月之所定也、禁裏院中及諸家非斯限矣、公役之外、新在家二十八町、戶五百四十五軒、大佛殿前二十八町、戶七百三十軒、三條橋以東六町、戶二百三十八軒、東西本願寺之所領六十四町、戶一千四百六十九軒、凡除皇城及寺田封戶、一千三百餘町、戶三萬五千四百三十七軒、此外東自河原町下粟田六町以東新町、智恩院門前、宮川町、石垣町、祇園町、八坂鄉、清水坂、西自聚樂至北野紙谷川、南自建仁寺門前至東福寺前、北今出川原土手西北柳原之外西倉口、并安居院北、殆足與洛内相比、實四民之所安居、而太平之餘標也、

〔本朝二十不孝〕今の都も世は借物

世に身過は様々なり、今の都を清水の西門より眺めまはせば、立續きける軒端の内藏は景色、朝日に映りて、夏ながら雪の曙かと想はれ、豊なる御代の例、松に音無く、千歳鳥は雲に遊びし、限も無く打闘き、九萬八千軒といへる家數は信長時代の事なり、今は土手の竹數は洛中にな  
りぬ。○下

雜載

〔好古小錄上書畫〕平安都城圖

東寺所傳二種一種殘缺

神泉苑所傳圖右京不詳審

拾芥鈔所載圖既水路

古本拾芥鈔圖左右京並

〔萬葉集五雜歌〕神龜五年七月二十一日、於嘉摩郡撰定、筑前國守山上憶良。○

讀略

歌詞兩首太宰卿

大伴

多都能馬母伊麻勿愛氏之可阿遠爾與志奈良乃美夜古爾由吉帝已牟丹米首略